

## 採点・評価基準(具体的基準)

教科・科目名	小論文（後期日程試験：令和8年度）	問題番号	SD
対象学部・学科(課程)等	グローバル共創科学部・グローバル共創科学科		
出題のねらい	<p>移動をめぐる格差や不平等に関する文章を読み、筆者の主張を正確に理解する論理的思考力、そのことを具体的事例の中に見出して説明することのできる洞察力、さらに社会が課題に対してどのように対応できるのか想像力を働かせて論理的に説明できる文章力を試すことをねらいとしている。</p>		
採点基準 (200点満点)	<p>問1 配点20% (40点)</p> <p>① 引用されている文章の中で「移動に困難を感じている人」や「移動したいけれど、移動できない人」について、筆者がどのように述べているかを正確に理解していること。</p> <p>② 上記理解が文中の言葉を用いて表現されていること。</p> <p>③ 誤字、脱字、文法上の誤りがないこと。</p> <p>問2 配点30% (60点)</p> <p>① 「移動をめぐる困難や苦勞を抱えたり、不平等さを感じたりしている人はたくさんいる。それは非日常的な出来事が起きたとき、一段と顕著なものとなり、可視化される」という言葉の意味を正確に理解していること。</p> <p>② 例として挙げられた二つの「災害」から、「災害発生直後の避難」において可視化されたものと「二次避難」において可視化されたもの、それぞれについて筆者の主張や設問の意図(題意)を的確に理解し、適切かつ簡潔に整理していること。</p> <p>③ 誤字、脱字、文法上の誤りがないこと。</p> <p>問3 配点50% (100点)</p> <p>① 「移動の機会や可能性は、人々に等しく与えられていない」という表現で含意される問題意識についての的確に理解していること。</p> <p>② 具体例として挙げられている事例が「移動格差」の問題を表す事例として適切であること。</p> <p>③ 社会として、具体例として挙げた「移動格差」の問題にどう対応すれば良いかについての記述が明確かつ適切であること。</p> <p>④ 文章全体に整合性があること。</p> <p>⑤ 誤字、脱字、文法上の誤りがないこと。</p>		